

# 那珂川町図書館

## オススメの1冊

『別府フロマラソン』 澤西 祐典／著 書肆侃侃房 【F ㊦】

「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」そんな湯都、別府は春になると燃えるらしい。別府八湯温泉まつりの期間中、風呂桶を片手に3日間で42湯をめぐり完走（完湯）を目指す「べっぷフロマラソン」が開催されるのだ。タイムレースではなく、完湯をめざすとはいえ、単純計算で1日14湯に入るとなると大変だ。さらに今年は倍の88湯を巡る「超フロマラソン」なるものも開催されるという。温泉が数多くある別府ならではのユニークなマラソンだが体調管理をしっかりとしないと湯あたりしそう。と、ここまで現実の話。今回紹介する本は、そんな「べっぷフロマラソン」の期間中、ひそかに開催されるという「別府フロマラソン」。いわば裏のフロマラソン優勝に燃える大学生のお話である。

主人公の明<sup>みょうぼん</sup> 攀湯<sup>じゅうざ</sup> 太郎と十三先輩は共に別府大学で温泉研究会に所属している温泉マニアである。そんな2人が参加を目論む「別府フロマラソン」は過酷も過酷。別府八湯からランダムに選ばれる一湯、計八湯+この日だけどこかに現れる隠し湯を探しあて一日で回らなければならないのだ。別府八湯とは、別府温泉郷・鉄輪温泉・堀田温泉郷など8つの温泉地の総称、つまり広い。源泉の数たるや、およそ2300。フロマラソンの参加者は、あたり湯を求めて、散在する温泉に片っ端から入って廻らなければならないのだ。しかも表のフロマラソンが移動手段問わずなのに対して、こちらは人間力と温泉愛が試される究極の試練のため、文明の利器は禁止。あたり湯かどうかは3分程湯に浸かると分かるそうだが、自分の足で探し出し一番最初に湯破した者だけが、飛び切りの「福」にありつけるのだろう。過酷なものにもかかわらず、参加者が後を絶たないのもそこである。強力なライバル多数、おまけになんだか摩訶不思議な現象が起こり始めたフロマラソン。2人は無事にすべての温泉を探しだし、優勝を手にすることができるのだろうか。

小説自体は摩訶不思議が沢山存在するファンタジーだが、随所に聞きなれた施設や名前があるのが面白い。また巻末の膨大な注釈も、どんなガイド本を見るより別府について詳しくなれそう。4月は何でも始まりの月、裏のフロマラソンは無理だけど、表の「別府フロマラソン」、ハーフフロマラソンぐらいだったら挑戦してみようかな。

那珂川町図書館（葱）